

BOOK REVIEW

独創はひらめかない「素人発想，玄人実行」の法則

金出 武雄 著

日本経済新聞出版社 ISBN 978-4532318413 2012年発行

評者：岸野文郎（関西学院大学）

本書のタイトルの副題に、「素人発想，玄人実行」の法則，とあるように，ご存じの読者も多いと思われるが，約10年前に同じ著者により出版された「素人のように考え，玄人として実行する」がもととなっている。世界的にロボットなどの研究に有名な著者が，この10年で日本が世界の中でさらに取り残されているのではとの危機感から，日本を人一倍愛しているが故に，特に若い研究者で，世界に羽ばたこうとしている若者にエールを送るために執筆されたものと思われる。旧著を出されたことは知っており，評判になっていたが全体を通して熟読していなかったもので，喜んで書評を引き受けた次第である。

本書の構成は以下のようになっている。

創造へのいざない

第1章 素人のように考え，玄人として実行する
—発想，知的体力，シナリオ—第2章 コンピュータが人にチャレンジしている
—問題解決能力，教育—第3章 自分の考えを表現し，説得する
—国際化時代の講演・会話・書き方の技術—第4章 決断と明示のスピードが求められる
—日本と世界，自分と他人を考える—

おわりに 楽しく問題解決を

新版あとがき 十年後の日本へのメッセージ

各章はいくつかのテーマについて金出先生が日頃考えておられることが述べられており，合計で48テーマについて語られている。どのテーマも筆者が長年米国で苦勞され，かつ世界的に活躍されておられるからこそ発言できるテーマが多く，ポジティブで前向きな考えは説得力があり，各方面の読者に有益なものばかりである。

本書の大きなテーマである「素人発想，玄人実行」は，発想は単純，素直，自由，簡単でなければならないが，発想を実行に移すためには知識が要り，習熟された技が要ることを意味している。しかし，独創，創造は無から有を生み出す魔法ではなく，真似に付加価値を付けたものであると主張されており，そのためには思考の持続が重要であることを強調されている。アイデアは気分転

換やふとしたきっかけで湧き出るようなことを言われるが，不断の努力が必要であると納得させられる。尤も，睡眠時間は1日に2，3時間でも平気で74時間考え続けることができるのとことであり，著者の精力的な活躍には敵わないが。

教育についても一家言をお持ちになっており，考えさせる学習を重視する「ゆとり教育」と記憶・反復の「詰め込み教育」について考察し，考えさせる学習は素直な素人発想に通じ，記憶と反復学習は玄人実行を可能にする力となると述べられており，説得力がある。教育の基本は「読み・書き・ソロバン（計算）」で，繰り返すことの必要性を強調されている。また，論文や提案書の書き方や，プレゼンの仕方にも言及されており，更に英語教育はあまり早くからやらないほうがよいと述べられており，言語はものの考え方に深い影響を与えると聞いたことがあり，昨今の国際化の対応として，早期より英語教育することについて考えさせられる。

外国から日本を見たときのもどかしさも各所に散見され，日本文化は発信することにより守られると述べられており，今後の日本の取るべき道を示唆されている。日米の比較で，「Enjoy」は楽しむ以上に良くも悪くも全部ひっくるめた体験を「味わう」という意味があり，日本は「極める，鍛錬する」が文化の土台にあるとの意見も興味深い。

研究指導から得られた教訓も数多く盛られており，結果が出なくて悩む学生に対して，できるやつほど悩むものだ，との殺し文句はもっとはやく知っていればと悔やんだ。アイデアは人に話して発展するとの言葉も共感できる。

おわりに，において書かれているように，研究を行うには楽しさが一番重要であると主張したかったのではないだろうか。自分に自信を持つことが重要であり，自信はプラス思考，ポジティブ思考から生まれるとのことである。全ての人が本書のように実行すれば全てが実現するとは思われないが，これから世界に羽ばたこうと思っている，特に若い方にお薦めする好著であり，ポジティブに，前向きに立ち向かって行って欲しい。

